

議題Ⅰ 「学校独自の情報モラルに関する標語を考える」

情報モラルの標語作成

情報モラル⑥

「写真や動画が流出する怖さを知ろう」

「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」

https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbAOd2f-4u_Mx-BCn13GywDI

②, ④, ⑧, ⑩, ⑫も視聴しましょう



どんな状況が想定できるか

- ウィルスに感染した
- パスワードを忘れてしまった
- なりすましの被害に実際に遭遇した
- フィッシング対策はどうすべきか
- 他人の個人情報をSNSに書き込んでしまったらどんなことが起こるか
- ペアレンタルコントロールのせいで、見たいサイトを見ることができない
- ファイルに保存しておいたIDとパスワードの一覧を消去してしまった
- インターネット上のデマに騙されて、買い物をしてしまった
- ツイートしたことで批判を浴びた（炎上）
- 動画が注目を浴びて視聴者が急増した（バズる）

状況を想定して標語を考えよう

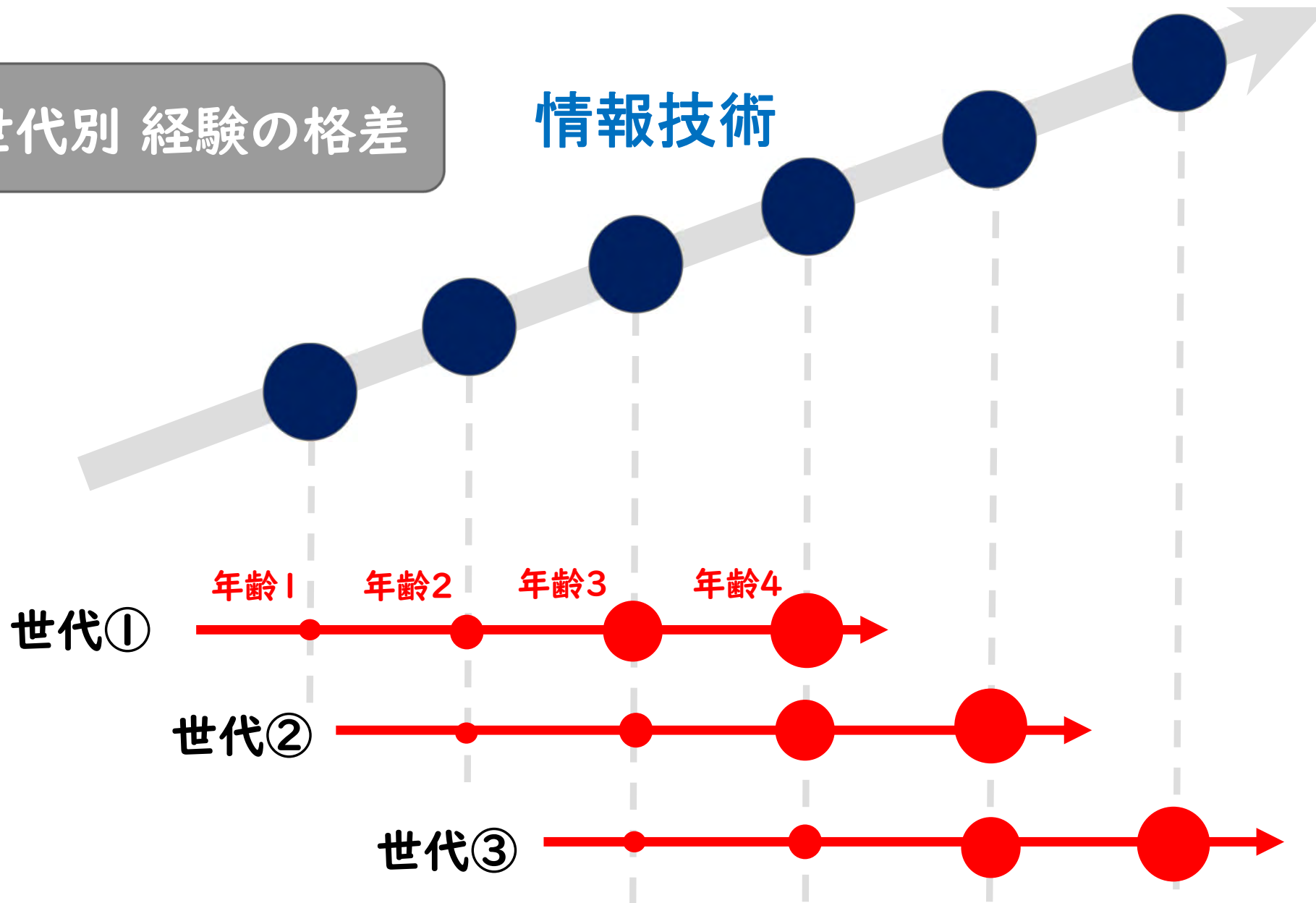
- ブレインストーミング／KJ法の結果から標語を考えてみる
- 他の人のアイデアの影響を受けて，標語を考えてみる
- インターネットの特性について，自分が知らなかったことに気づくことができたかを確認する。
- 議論はとにかくアイデアを出し合ってみる
- 他の人の意見を参考にする
- 学校生活の中で，どんな場面があったかを想定する

議題Ⅱ 「世代や立場の異なる人々が共通認識できる情報モラル
の新しい取り決め（共通ルール）を考える」

格差について考える
(ジェネレーションギャップ)

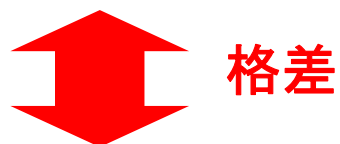
世代別 経験の格差

情報技術



年配者 技術の発展に貢献

技術を作り上げた人



技術を利用した人

水準の高い技術には不慣れな人が多い

技術を発展させた社会に貢献した苦労人，発展の過程を見てきた

技術を使いこなすのは慣れている

若者 技術の発展の恩恵を受ける

技術をさらに発展させる人



技術を利用する人

技術の発展のおかげで便利な生活が可能となる

地域共生社会（厚生労働省）

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

共生社会に向けて
(文部科学省)



障害者等の社会参加
インクルーシブ教育システム

社会的弱者と共に生きる社会

お年寄り，障がい者，病弱者，
精神疾患患者 ...

いずれは自分も同じ立場になり，
弱者になる

自分の力を発揮することは大切である。ただ、自分の力を発揮するだけでなく、他者と関わる中で、時には助け合うことで社会を築き上げることを考えることが必要な世の中である。

(地域) 共生社会の説明

厚生労働省

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00506.html



文部科学省

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/attach/1325884.htm



障害者について

- 「障害者」, 「障がい者」という表記がある
- どのような権利が認められてきたか
- 特別支援教育の拡充・充実化
- :

事前準備として調べてみる

情報格差（デジタルデバイド）とは

所有する、あるいは入手できる情報の質・量から生じる格差。また、その格差によってもたらされる経済的・社会的格差。
(地域の違い等、格差の捉え方が多数ある)

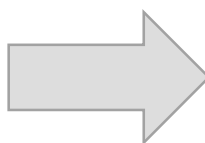
ジェネレーションギャップによる情報格差

世代が違うことにより、情報機器に慣れていない分、情報機器を使いこなす頻度が異なり、結果として年配者は若者と比較すると情報格差が生じることが多い

人類が勝ち取ってきた様々な権利

階級社会

(地位に応じた生き方)



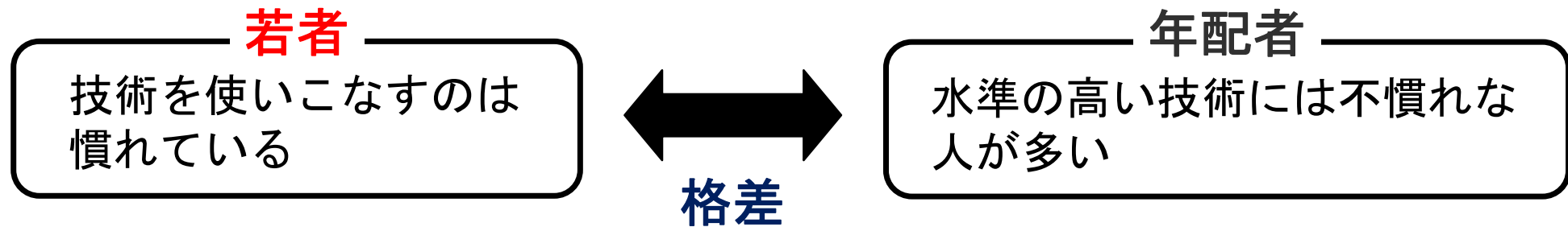
基本的人権

(認知・誰もが持つ権利)

日本国憲法（1946年～）

民主主義の下で、誰もが等しく持つ権利として
基本的人権の尊重が明示される（平等権，自由権，
社会権，参政権，請求権）

情報格差（デジタルデバイド）



- **最初から高水準の技術を学べる恩恵を受けている**
- これまでに社会で勝ち取ってきた様々な権利のおかげである
- **教育を受けたおかげであり、能力が高いことを勝ち誇るものではない**
(自分だけで能力を身に付けた訳ではない)
- **恩恵を受けたことを生かして、協働して生きることを考える**
(社会的弱者と共に生きる社会)
- (昔の人の同じ年の時と比べれば) 活用する力(能力)は確かにあるが、生活するための能力と経験ははるかに及ばず、年配者から学ぶべきことがある

若者の情報活用 (年配者より優れていること)

- スマートフォン等, 電子機器に精通 (日常的に活用)
- 学校教育, 「情報」の教科学習 (20年程前に開始)
- 日常生活を送る上で使いこなすのが当たり前という意識

事前準備として考えてみる

若者が（年配者に）劣ること

- 生活する能力全般
- 職業経験，人とのつながり
- 社会の中での影響力，知名度

：

事前準備として考えてみる

年配者の情報活用 (年配者が優れていること)

【マウスアート】

ホームページ

<http://taku0055.s1007.xrea.com/stert.html>

Wordによる描画



年配者でも様々な活動を行っている
ことを調べてみる

年配者が（若者に）劣ること

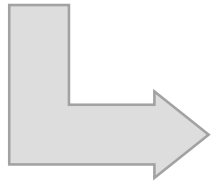
- 情報活用に不慣れ（多数）
- 体力（運動量），健康
- 見た目，肌の艶

：

事前準備として考えてみる

共同作業の具体例

- 祖父母と一緒にマウスアートに取り組む
- 年配者がマウスアートに取り組めるのであれば、インスタグラムによる作品の投稿，発表を一緒に行う



このとき，どんなルールが必要となるか考える

議論の結果から，自分たちで考えてみましょう

共同作業でどんなトラブルが起きるか

- 年配者はマウスアートはできるが、他の作業がうまくできないことがある
- 若者がフォローに入る心掛けが必要となる
- 年配者でもフォローに入らなくてよい人もいる
- 最初から共同作業のルールを決めておけば、共同作業をうまく乗り切ることができる
- では、どのようなルールがあれば、お互い気持ちよく共同作業ができるかを考える

→ **ルールの文章化**

次回の議論までに行っておくこと

- 6つのキーワードについて自分の考えやアイデアを出す
(調べたことをワークシートに記入)
- 「障害者」について理解する
(調べたことをワークシートの「(地域) 共生社会」
の欄に記入)
- 協力する場面の想定 → 情報モラルのルールを考える
(インターネット・文献等)

「良いアイデアを出そう」と意気込む必要はありません。まずは事前準備をしっかりと行ってみてください。